

【目的】肥満が心血管疾患の危険因子である事はよく知られているが、肥満パラドックスの報告により内臓脂肪が注目されている。内臓脂肪の定量にはCT撮影が必要であるが、最近デュアルインピーダンス法により、腹部全体と腹部表層部のインピーダンスから簡便に内臓脂肪量を計測できる機器（HDS-2000、オムロン）が導入されたため、報告する。【方法】当館循環器内科に入院となった44症例（68.1 ± 11.2歳、男性80%）について、デュアルインピーダンス法により内臓脂肪量を測定した。当館職員ボランティア23名（31.5 ± 8.3歳、男性57%）をコントロールとして計測した。【成績】入院患者では職員ボランティアに比べ、Body mass index（BMI）に有意差は認めなかった（23.8 ± 5.0 vs 21.6 ± 2.6, p=0.06）ものの、内臓脂肪量は有意に高値（83.8 ± 56.1 vs 46.1 ± 15.7 cm³, p<0.01）であった。BMIと内臓脂肪量に有意な相関関係（r=0.83, p<0.01）を認めたため、BMIに対する内臓脂肪量の比を検討したところ、入院患者において高値（3.35 ± 1.59 vs 2.11 ± 0.61, p<0.01）であった。【結論】循環器内科入院患者における内臓脂肪量は高値である。

評価1	評価2	評価3	採否
発表日時 月 日 (第 日)	セッション	会場	時 分～ 時 分

受付番号

演題番号